

県内新規学卒者の県内での就職状況は、各種調査によれば、県内高校卒業者が約8割、県内大学卒業者が約3割となっており、若者の県内定着・回帰の促進に向け、大学卒業者の県内就業を促進することが重要な課題となっている。このため、県では、昨年度、県内大学生を対象に「仕事・就業」への意識等に関するアンケート調査及びインタビュー調査を実施し、調査結果をもとに分析等を行った。

＜調査委託先＞ 株式会社フィデア情報総研

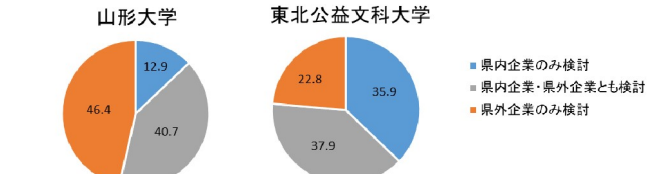
＜調査方法＞ 山形大学及び東北公益文科大学に在学する学生を対象に、アンケート調査及びインタビュー調査を実施

【山形大学】〔アンケート〕学部4年生及び大学院生 計140名（男性73,女性67/県内出身43,県外出身97/文系66,理系74）、〔インタビュー〕3年生及び就職内定者（4年生、大学院生）計11名

【東北公益文科大学】〔アンケート〕学部4年生 計145名（男性79,女性66/県内出身91,県外出身54）、〔インタビュー〕就職内定者（4年生）計6名

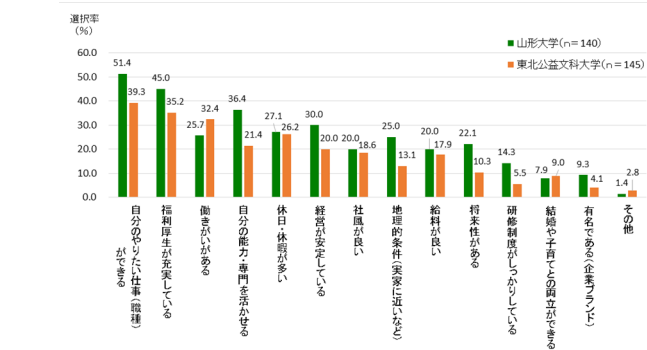
県内大学生の「仕事・就業」への意識等

1. 県内企業への就職についての検討状況



- 県内企業を選択肢に入れて就職を検討した人の割合は、山形大学で約5割、東北公益文科大学で約7割。
- 県内出身者は、県外出身者に比べ、県内志向が強い傾向が見られた。また、東北出身者からは、山形を含めた東北全体への志向がうかがえた。
- 理由について、『県内企業のみ検討』では、地元への馴染み・愛着や、地域貢献を挙げた人が多い。また、『県内企業・県外企業とも検討』では、「山形の企業の選択肢が少ない」、「県外に一度出て視野を広げたい」、「インターンシップ等で山形に馴染み」、「企業説明会で県内企業に関心」等を挙げている。

2. 仕事内容や企業を選ぶ際のポイント

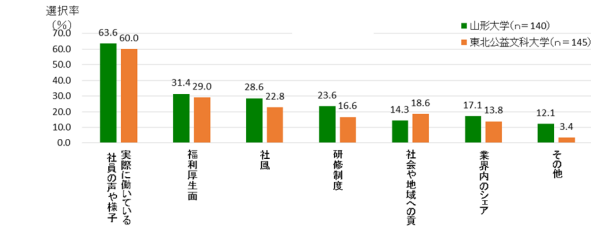


- 「自分のやりたい仕事」、「働きがいがある」、「自分の能力・専門を活かせる」といった「仕事の内容・質」を基本に、福利厚生、休暇制度、社風なども考慮に入れる傾向がみられた。
- 「給料が良い」を選んだ人は、さほど多くなかった。
- 「自分の能力・専門を活かせる」は、理系の学生で選んだ人が多かった。
- 女性は、男性より、福利厚生など勤務条件や、社風・社内の雰囲気等を重視する傾向がみられた。

5. 新型コロナに伴う価値観や意識の変化

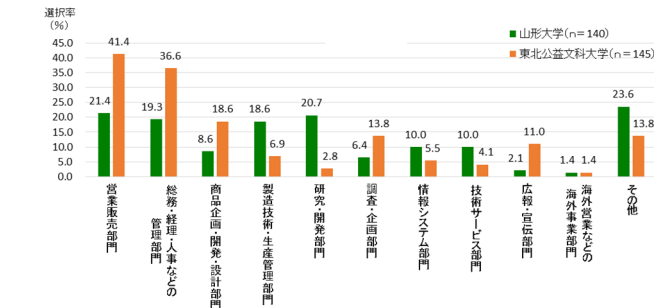
- 約4割の学生が「変化があった」と回答。
- 特に、地理的条件について、「首都圏より東北や県内志向が強まった」などの意見があった。
- 企業を選ぶ際には「コロナ禍においても経営の持続・安定性を確保している企業」、「危機への対応力のある企業」、「テレワーク、リモートワークといった新しい働き方ができる企業」を重視するといった意見や「説明会・面接等においてコロナ対策による迅速・柔軟な対応力があった企業を評価する」といった意見があった。

3. 就職活動において必要とする情報



- 「実際に働いている社員の声や様子」が最も多かった。
- 自由記述・インタビューでは、「県内では製造業系の企業が多く、特に、文系が興味を持つ仕事・職種が少ないイメージがある」、「仕事・企業の選択の軸となる“専門性・やりがい”などの明確な情報が学生に十分に届いていない」、「福利厚生についての情報が少なく、積極的に出してほしい」といった意見があった。

4. 志望する職種



- 文系・理系の違いや専攻などが、志望する職種に反映する傾向。
- 山形大学では、営業販売部門、総務・経理・人事などの管理部門、製造技術・生産管理部門、研究・開発部門の4職種が多く、東北公益文科大学では、営業販売部門と総務・経理・人事などの管理部門の2職種が多かった。
- 自由記述・インタビューでは、今後採用の拡大が必要と考えられる具体的な業種として、両大学ともIT系、情報通信系が多く挙げられた。文系・理系の別でみると、文系では、デザイン、コンサルティング、人材、広告、観光業等が多く、また、理系では、大学の研究分野と密接にかかわる研究開発職を志望する意見が多かった。
- 女性からは、「文系学生の事務系の仕事が見えづらい」、「事務職系の仕事の幅を広げ増やしていけば県内就業につながる」との意見もあった。

今後の施策の展開方向

(1) 県内企業に関する情報発信の強化

- 県内には製造業系の企業が多く、文系学生が興味を持つ仕事・職種が少ないイメージを持つ学生が多い傾向
⇒ 学生の専門性や志望に応じた、きめ細かな、わかりやすい県内企業情報の発信・提供（オンラインを活用した県内企業情報の充実等）
- 学生は、直接社員の話を聞き、仕事を体験するなど、実際、その企業で働くことの実感・納得感を持って就職先を選びたい意向
⇒ 企業を知り、体験し、就職するまでの一連の支援の充実（インターンシップの充実等）

令和3年度の主な取組み

- 対面型とオンライン型を組み合わせた「ハイブリッド合同企業説明会」を開催し、県内企業情報の発信を強化
- 専任のコーディネーターがマッチングを行う地方創生インターンシップ事業を推進し、学生の県内企業への理解を促進 など

(2) 給与や福利厚生面の改善に関する支援の充実

- 学生は、仕事の質・内容を基本に、福利厚生、給与水準、社風等も総合的に考慮
⇒ 県内企業による労働条件の改善や環境整備に対する支援や県内就職へのインセンティブの充実

令和3年度の主な取組み

- 社会保険労務士をアドバイザーとして派遣し、職場環境改善等に向けた助言や情報提供を実施
- 奨学金返還支援制度を拡充し、県内外出身の学生の県内就職を促進 など

(3) 魅力的な就業の場の拡大

- 学生は、大学での専攻や専門知識を活かした“やりがい”のある仕事を志向
⇒ 企業のイノベーション、生産性向上等を促進し、学生が志向する仕事の創出・拡大を支援
⇒ 新型コロナを契機とした分散型社会やデジタル化の進展を見据え、研究開発や本社機能等の誘致促進やリモートワークの拠点形成等に向けた取組みの拡大

令和3年度の主な取組み

- 「創業支援センター（仮称）」を創設し、県内外の多様な主体の連携によるスタートアップや新分野進出等を支援
- 中小企業パワーアップ補助金制度を創設し、県内企業の生産性向上等を支援 など